

暑熱ストレスは9月に症状としてあらわれる

今年も暑い夏となり、暑熱の対策が必要となりました。さらに、9月の残暑を乗り切ることが病気の予防に重要となります。

図1は釧路管内A町の体細胞数

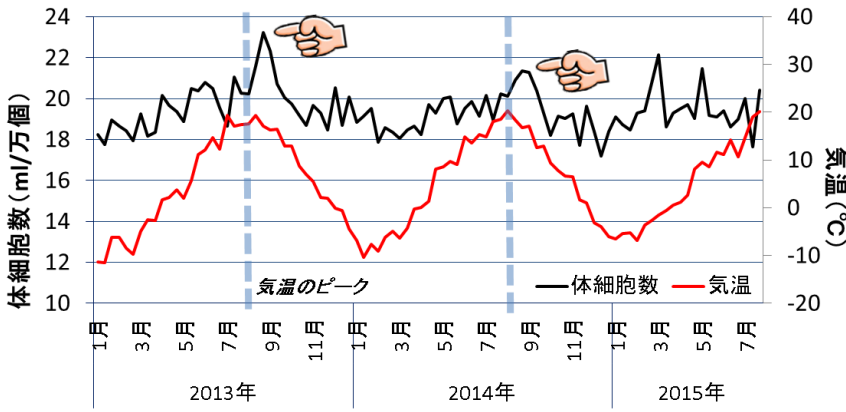


図1 体細胞数と気温の推移(バルク乳とアメダス情報)

胞数を示したグラフです。気温の高い8月よりも9月の体細胞数が高くなっています。原因は、「暑熱期のルーメンの低下」と「9月の残暑」です。暑熱時期に乾物摂取量を低下させた牛は、ルーメンマットの形成不足と反芻回数低下を伴い、ルーメンpHを低下させ、アシドーシスを引き起

こします。このことが、蹄病、乳房炎、繁殖障害という症状であらわれてきます(図2)。暑熱ストレスの判断に、気温と湿度をもちいた「不快指数」があります(表1)。当地域は9月上旬まで不快指数が高い傾向です。温湿度計で不快指数をチェックし(写真1)、残暑を乗り切る対策をとりま

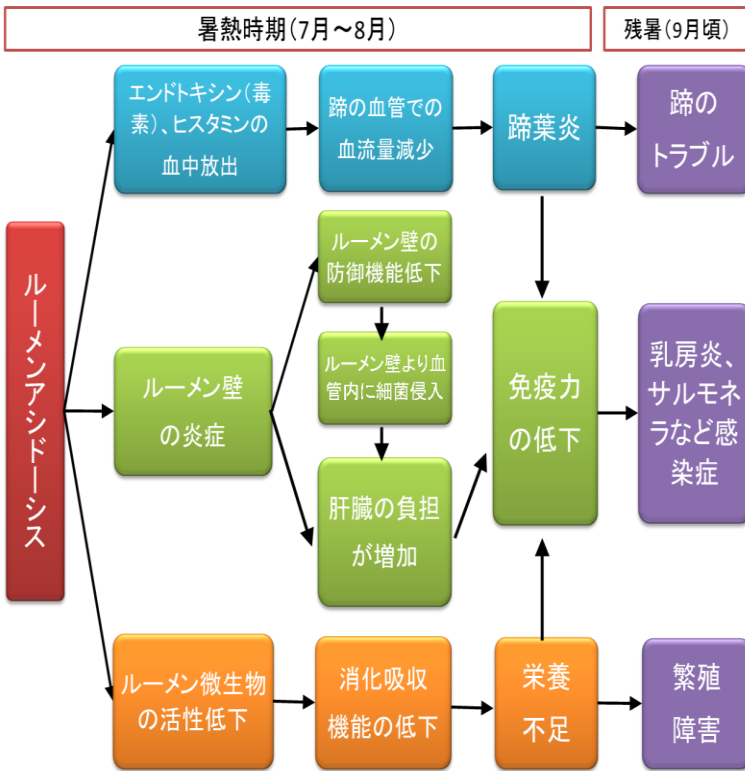


図2 ルーメンアシドーシスによる病気発生プロセス

技術資料「夏バテもうご免！」根室農業改良普及センターより



写真1 ヒートストレスメーター(EMPEX) THIが一目でわかる!

表1 乳牛の不快指数(THI)

T (温度、°C)	H (相対湿度、%)				
	10	30	50	70	90
21	64	65	67	68	69
24	67	68	70	72	74
27	70	72	75	77	80
30	72	75	78	81	84

不快指数が「72」・・・暑熱ストレスが始まる
不快指数が「77以上」・・・乳量が急激に低下する
THI=0.81T+0.01H(0.99T-14.3)+46.3

残暑を乗り切る対策

- 消化率の高い牧草を給与
- 盗食・選り食いの防止
- エネルギーとタンパクをしっかりと充足
- 重曹の利用
- 扇風機や水槽の増設